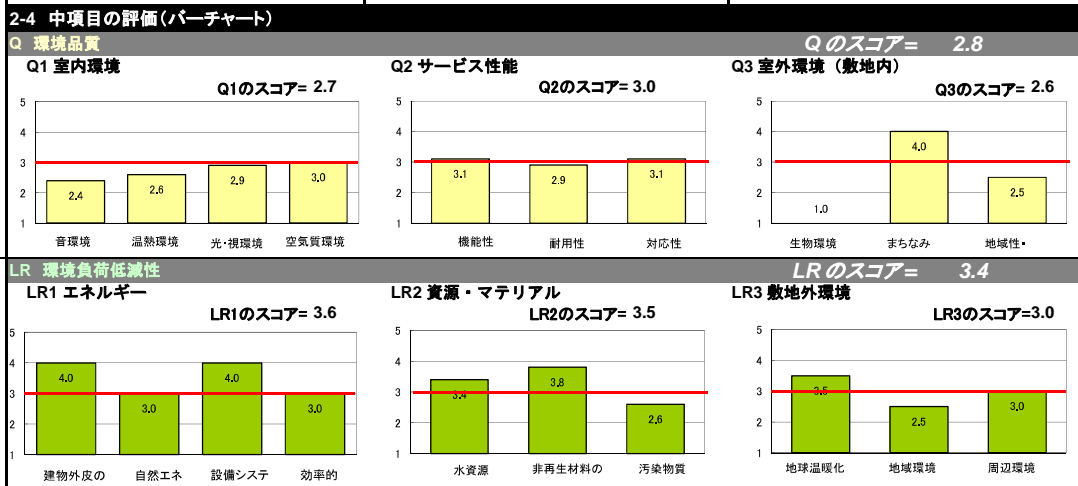
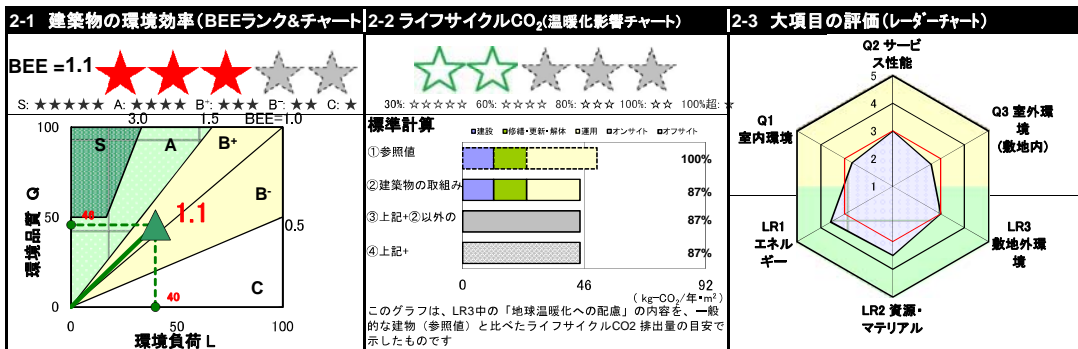


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	安城市立和泉保育園	階数	地上2F
建設地	安城市和泉町北本郷237番、237番	構造	RC造
用途地域	無指定(法22条地域)	平均居住人員	340 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,200 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2017年2月11日
敷地面積	7,661 m ²	作成者	原田 翼
建築面積	1,420 m ²	確認日	2017年2月11日
延床面積	2,447 m ²	確認者	原田 翼



3 重点項目		
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.5</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>3.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>	
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.4</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>3.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>県産木質内装材</p>	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き
安城市立和泉保育園

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能				3.0	0.30	5.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.30	4.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20	4.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			フローリングの基材にゴム付の製品を採用した	4.0	0.20	4.0	-	
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温				3.0	0.60	3.0	-	
2 外皮性能				3.0	0.40	3.0	-	
3 ゾーン別制御性				4.0	-	-	-	
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率				2.0	0.60	5.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	5.0	-	
3.2 グレア対策								
1 昼光制御				3.0	0.30	-	-	
3.3 照度								
3.4 照明制御								
LED照明器具を主体とし、便所は人感センサー式の照明制御とした								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質				3.0	1.00	5.0	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
4.2 換気								
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	4.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視				4.0	0.20	-	-	
2 喫煙の制御			全館禁煙	3.0	0.50	-	-	
5.0				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性				3.0	0.40	-	-	3.1
2 高度情報通信設備対応				4.0	-	5.0	-	
3 バリアフリー計画				4.0	-	4.0	-	
3.0				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観				2.0	0.30	-	-	
2 リフレッシュスペース				1.0	0.50	4.0	-	
3 内装計画				5.0	-	-	-	
3.0				3.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計				4.5	0.30	-	-	
2 維持管理用機能の確保				5.0	0.50	-	-	
4.0			便所等の設備配管系統は、将来の更新に配慮し上下階で揃えた防汚・ノンワックス・水に強い材料を採用	4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性				2.9	0.31	-	-	2.9
3.0				3.0	0.48	-	-	
3.0				3.0	0.80	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数				3.2	0.33	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			乳児室には水に強いビニル床シートを採用	2.0	0.23	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				5.0	0.09	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			汚水・雑排水管にVP管を採用	3.0	0.08	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				5.0	0.15	-	-	
3.0				3.0	0.23	-	-	
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備				2.2	0.19	-	-	
2 給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-	
3 電気設備				2.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		②		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				1.0	0.20	-	-	
4.0			ハザードマップから浸水エリアではないことを確認	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
1 階高のゆとり				3.1	0.29	-	-	3.1
2 空間の形状・自由さ				3.4	0.31	-	-	
3.0			間仕切り壁に一部軽量壁を使用	3.0	0.60	4.0	-	
4.0				4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								
1 空調配管の更新性				3.0	0.31	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.38	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.17	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.17	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.11	-	-	
3.0				3.0	0.11	-	-	
3.0				3.0	0.22	-	-	
3.0				3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペースの確保								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30	-	-	2.6
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	敷地内にある既存の桜の木を一部残す計画とした		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.54		4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				4.0	0.30	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)		省エネ効果の高いLED照明を採用		4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源保護								
1.1 節水				3.4	0.15	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		節水器具の採用		4.0	0.40	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.60	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				3.8	0.63	-	-	3.8
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.07	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②			3.0	0.24	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	再生砕石、集成材、木材・プラスチック再生複合		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				5.0	0.20	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	GL工法の採用、保育室内装壁に木板を採用		3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用				2.6	0.22	-	-	2.6
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.32	-	-	
1 消火剤				2.5	0.68	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	
3 冷媒				2.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:87%		3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	独自	出入口は交通量の少ない市道からとし、一方通行型駐車場とした		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音	独自			3.0	1.00	-	-	
2 振動	独自			-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:3.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		3.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	県産木質内装材

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 安城市立和泉保育園

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 施設の構成及び整備の方向性、並びに環境配慮対策等の検討を行いつつ、園児に安全で安心を与える施設造りを目指した。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 保育室のサッシには複層ガラスを採用し、外皮の性能向上を目指した。 また空調機にはGHPを採用しCO2排出量の削減を目指した。 さらに自然光をより多く取り入れられるように、保育室全てが南面配置となるように計画した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 バリアフリーに配慮することは基より、保育園という用途上、水に強い床材の選定や、設備コアとなるトイレ廻りを上下階揃えることで、メンテナンスに配慮した計画とした。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 内装腰壁に自然木材の板張りを採用し、県産材(間伐材)の採用を目指した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外皮の性能向上を目指しながら、内部についても床暖房を採用するなど、室内の状況に合わせて適切に温熱環境を調整できる施設を目指した。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 集成材や再生砕石等のリサイクル材を採用した。 また建屋解体時に分別の容易なGL工法を採用した。 さらに、廃材の出ないフラットデッキの採用など、資源の有効利用を目指した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 低Nox型小規模燃焼機器のGHPを採用した。 周囲の交通状況に配慮し、交通量の多い県道側ではなく、市道側に駐車場の出入口を設定し、送迎時に混雑しないように敷地内で一方通行となるような動線とした。また交差点からできるだけ離れた位置に出入口を設定し、周囲の安全にも配慮した計画とした。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。